

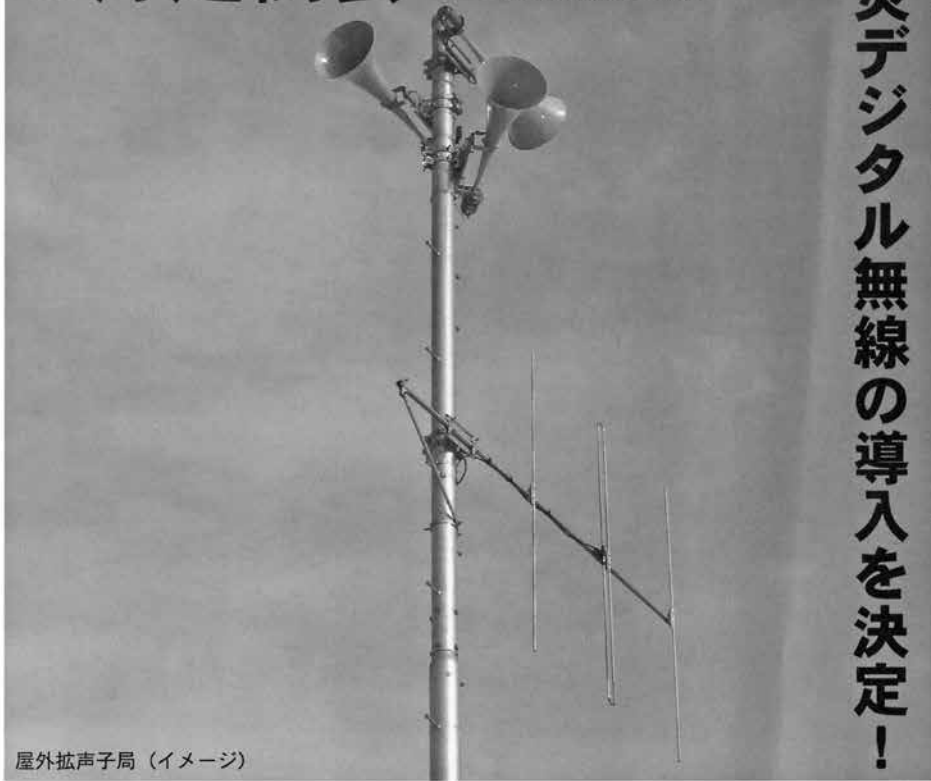
新たな村
発見！体感！

10/2 わが村体験活動
＝東成瀬中学校＝

災害に強い村づくり

防災デジタル無線の導入を決定！

9月定例会 — 9月招集会議 —



屋外拡声子局（イメージ）

9月定例会は、来年1月から導入を目指す「通年議会」を試行する定例会として開催されました。会期は9月5日から12月2日までの89日間で、今回の本会議は「9月招集会議」と定め、5日から13日までの9日間の日程で開催されました。平成24年度一般会計・特別会計決算9件、人事4件、条例など4件、契約締結2件、補正予算8件の合計27件と陳情2件を採択とし、議員発議を含む意見書など4件をすべて全会一致で原案のとおり、同意・認定・可決しました。また、一般質問は2議員が登壇し、村政をただしました。

緊急通報体制の確立を目指す

情報伝達は、有線から無線に

現在、村の情報伝達はオフトーク通信で行っています。このサービスが、平成27年2月末日で終了することから、これに代わる情報伝達システムを検討してきました。

その結果、災害時に断線の恐れがある現在の有線方式を改め、無線方式による緊急通報体制を確立し、平常時には行政情報の伝達サービスを行うため、8月臨時会で予算案が、9月招集会議で契約案が可決され、防災デジタル無線（同報系）施設整備事業がスタートしました。

事業の内容は？

■施設概要

施設名	局数	設置場所
親局	1局	東成瀬村役場（防災情報センター）
簡易中継局	1局	岩井川字矢櫃（やびつ）
屋外拡声子局	18局	①滝ノ沢 ②滝ノ沢(新) ③下田 ④田子内 ⑤平良 ⑥蛭川 ⑦肴沢 ⑧岩井川村中 ⑨岩井川東村 ⑩城下 ⑪入道 ⑫手倉 ⑬椿台 ⑭小五里台(新) ⑮五里台 ⑯谷地天江 ⑰大柳 ⑱草ノ台(新)
戸別受信局	1,000局	全世帯・事業所・公共施設

■事業費と財源内訳

区分	事業費			財源内訳	
	工事費	施工監理費	合計	起債	一般財源
平成25年度	1億4,300万円	180万円	1億4,480万円	1億4,300万円	180万円
平成26年度	6,600万円	200万円	6,800万円	6,600万円	200万円
合計	2億900万円	380万円	2億1,280万円	2億900万円	380万円

※起債・・・緊急防災・減災事業債（償還金の70%が地方交付税で措置されます）

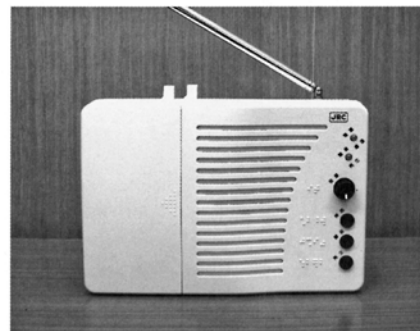
■工事期間

本年度から2ヶ年度の継続事業

25年度は、親局、簡易中継局・屋外拡声子局を整備し、26年度は、戸別受信機を整備する。

■機能概要

- ①デジタル信号のため、スピーカから聞こえる音は雑音がなく聞き取りやすい。
- ②全世帯・事業所・公共施設に戸別受信機を設置し、屋内で通報内容が聞くことができる。
- ③親局で放送日時・放送地区・放送内容を事前に登録し自動放送ができる。
- ④J-ALERT（全国瞬時警報システム）との連動により、緊急地震情報やミサイル情報など、国が発表する緊急放送に対応している。
- ⑤親局からの放送以外に、消防分署から緊急放送ができる。



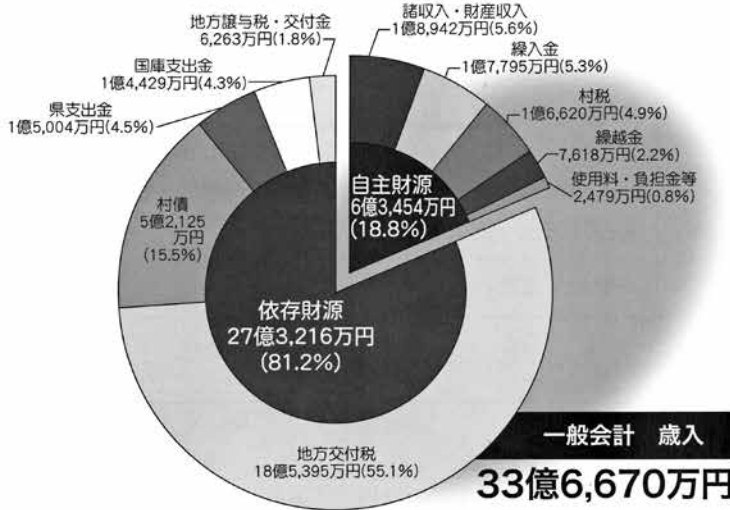
戸別受信機（イメージ）

※事業計画です。内容が変わる場合があります。

平成24年度一般会計歳出総額

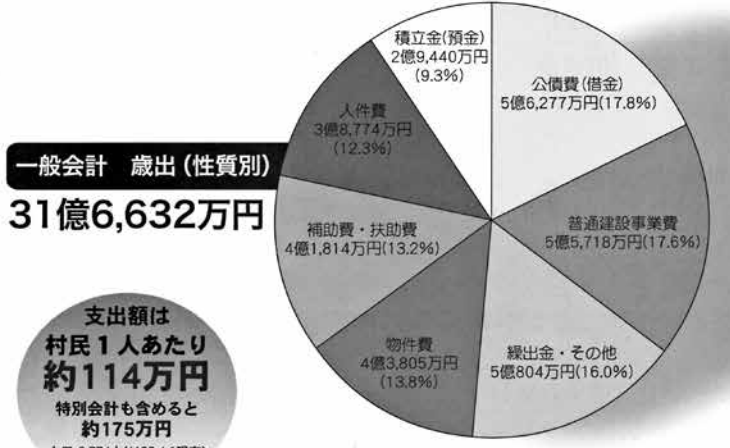
31億6,632万円の成果を認定!

9月招集会議の最終日となった13日に平成24年度の各会計の決算が全会一致で認定されました。



決算のあらまし
 私たちの生活に最も関わり合いの深い一般会計は、歳入(収入)が、33億6670万円、歳出(支出)が、31億632万円となっており、歳入から歳出を差

引いた形式収支は2億37万円の黒字決算となりました。また、形式収支から25年度に繰り越すべき財源を引いた実質収支も7035万円の黒字となりました。前年度に対し、歳入



が3億9529万円、歳出は5億1949万円のそれぞれ減額となりました。特別会計もすべての会計が黒字決算となりました。歳出の額が最も大きく伸びたのは、簡易水

道事業で、約2億円の増加です。主な要因は、平成20年度から始まった田子内地区の北部地区簡易水道事業における機械設備工事で、施工額は1億3125万円となつています。

支出額は
**村民1人あたり
 約114万円**
 特別会計も含めると
約175万円
 人口 2,774人(H25.4.1現在)

【歳入】
 ほとんどの費目が減額となる中で、地方交付税は、前年度に対し5508万円の増額となり、歳入全体の約半分を占めています。また、その自治体の財政力を示す「自主財源」は6億3454万円で歳入全体の18・8%にとどまり、国や県に支えられている状況です。

【歳出】
 歳出で最も大きな費目は、村の借金の返済となる公債費で、5億6277万円となり全体の17・8%を占めています。借金の返済が最も大きく苦しい財政状況ですが、村では償還金に対し地方交付税で補てんされるものを多く借り入れていきます。これを「交付税算入の起債」といい、実質的に村が返済する額は少なくなっています。

一般会計

24年度決算

■各会計の決算額

会計名	決算額			収入未済額 (税金等の滞納)	
	歳入(収入)	歳出(支出)	差引き		
一般会計	33億6,670万円	31億6,632万円	2億37万円	570万円	
特別会計	国民健康保険	3億3,810万円	3億3,745万円	65万円	759万円
	国民健康保険(診療所)	1億948万円	1億37万円	911万円	-
	老人保健	-	-	-	-
	後期高齢者医療	2,477万円	2,438万円	39万円	14万円
	介護保険	2億8,222万円	2億7,888万円	334万円	11万円
	介護保険(幸寿苑)	2億8,923万円	2億8,884万円	39万円	2万円
	簡易水道	5億3,888万円	5億3,502万円	385万円	81万円
計	下水道	1億2,188万円	1億2,064万円	123万円	70万円
		17億456万円	16億8,560万円	1,896万円	937万円
会計	50億7,126万円	48億5,192万円	2億1,934万円	1,507万円	

※金額は表示単位未満を四捨五入していますので、合計などが一致しない場合があります。

■財政の主要な指数

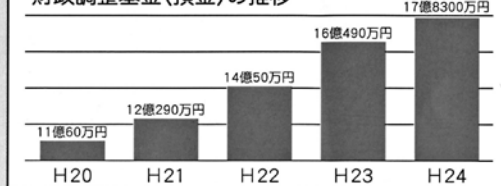
区分	22年度	23年度	24年度	全国町村平均	説明
財政力指数	0.11%	0.11%	0.10%	0.39%	一定の行政水準を維持するために必要な経費に占める税の割合を示すもので、指数が高ければ財政が豊かなこととなります。
経常収支比率	82.2%	86.8%	84.1%	85.3%	村税や地方交付税など経常的な収入に対する人件費、扶助費、公債費など経常的に支払うものの割合で、値が小さいほど財政運営に余裕があることとなります。町村では70%が望ましいとされています。
公債費負担比率	23.3%	17.7%	17.8%	15.3%	公債費(借金)の元利償還金等(返済)に充てた一般財源が一般財源総額に対し、どの程度の割合になっているかを示すもので、公債費がどの程度一般財源の使途の自由度を制約しているかを見ることができ、財政構造の弾力性を判断するものです。高いと「財政が硬直」していることとなります。

※全国町村平均は、総務省の「地方財政白書」における23年度決算の数値です。

■財政健全化判断比率

区分	22年度	23年度	24年度	基準値		説明
				早期健全化	財政再生	
実質赤字比率	-	-	-	15%	20%	一般会計の歳入から歳出を単純に差し引いた額(形式収支)から翌年度に繰り越すべき財源を控除した実質収支額が赤字か黒字かを調べるもので、村は赤字でないで値がありません。
連結実質赤字比率	-	-	-	20%	40%	全会計の実質収支が赤字の場合、標準的な財政規模に対する赤字額の割合で、村は赤字でないで値がありません。
実質公債費比率	16.5%	12.6%	9.4%	25%	35%	村の一般会計などから支出する元利償還金(借金の返済)などの標準的な財政規模に対する割合です。(低いほど良い)
将来負担比率	-	-	-	350%	-	村の一般会計などが将来負担すべき実質的な負債の標準的な財政規模に対する割合です。村では、負債に対し、返済可能となる基金(預金)残高があるため比率がでません。(低いほど良い)

財政調整基金(預金)の推移



健全化比率は良好
地方自治体の財政の健全化や再生を判断する4つの財政指標を「財政健全化判断比率」といいます。
平成24年度における比率はいずれも良好な数値となっています。

村の預金は過去最大
村の預金となる財政調整基金の残高は17億8300万円です。過去最大となっています。

有効に使われているか！

24年度決算の審査は、議長と監査委員を除く8名の議員で構成する決算特別委員会（委員長・佐々木正志）を設置し、9月10日・11日の2日間で審査を行いました。審査の結果、一般会計とすべての特別会計を「認定すべきもの」としました。



決算特別委員会

総務財政課

あつてもなくても
質問 顧問弁護士への委託料は、何かあつてもなくても配置するためのものか。
答弁 何かあればということではなく、いろいろな相談を行っている。
隔年でできないか
質問 公会計整備委託料は隔年で作成できないか。

企画商工課

答弁 毎年公開するための委託料となっている。
売電の資料はあるか
質問 太陽光発電設置に係る補助で1軒あたりの売電の資料などあるか。
答弁 調査していない。
光放送システム基金
質問 次期行政放送を光フ

税務会計課

村税不納欠損
質問 村税の不納欠損における根拠は。
答弁 5年で時効のもの。その時効に対し、財産などが差し押さえするものがないか調査し、執行停止を行っているから3年経ったもの。いろいろな調査をして法に則って欠損としている。

民生課

単価を上げたのは
質問 雪下ろしサービス事業で、1日1万2000円に単価を上げた理由は。
答弁 24年度は雪が多く、作業者が少なく、単価を上げて対応した。
1人当たりの単価は
質問 老人クラブ助成金は単価を決めているか。
答弁 一人800円となっている。
参加率が低い
質問 六十路の会の参加率が低い、どう考えているか。
答弁 60歳になった人が一同に会し交流を深める村ならではの事業であり、参加を促しながら継続していく。
活動内容は
質問 防犯指導隊の活動内容は。
答弁 お盆、夏祭りの見回り、春・秋のロックパトロールなどの活動をしている。
把握しているか
質問 インフルエンザの予防接種をしていない方は把握しているか。

答弁 任意の接種なので把握していない。

喀たん検査の基準

質問 肺がん検診で、喫煙者は喀たん検査も行うが、その基準は。

答弁 1日の喫煙本数と喫煙年数によって決まる。

胃がん検診受診率

質問 40・5%の胃がん検診受診率は低いように思うが。

答弁 村の検診を受けた方のみを受診率で、医療機関で受けている方、何も受けていない方など把握する必要があると感じている。受診率は全県で2位となっている。

出動計画は

質問 3分団3部の積載車は五里台に配備しているようだが、その出動態勢は。

答弁 出動計画を協議する。

農林課

平良カブ生産拡大事業

質問 平良カブ生産拡大事業における、なるせ加工研

究会とJAとの関係は。

答弁 つけ込みは加工所へ村が業務を委託し、パッケージして販売するのはJAとなっており、なるせ加工がJAより250円でパッケージ依頼を受け、JAが350円で店頭販売を行っている。

質問 岩井川・手倉でも行うか

質問 滝ノ沢ファームで行っている夢プラン事業と起業者の組合せによる財源手当を岩井川、手倉あるいは田子内でも出てきた場合に行うか。

監査委員決算審査意見



本会議で審査結果を報告する高橋代表監査委員

地方財政を取り巻く環境は、少子高齢化の進行や景気回復の遅れから、税収の伸び悩みや社会保障経費の著しい増加など依然として厳しい状況が続いている。

こうした中で、平成24年度は各会計とも黒字を確保しており、一般会計においては、主要指標が更に好転し、基金残高も増加するなど財政状況は良好な状態を保っている。

しかしながら、国・地方共に巨額の借入金残高を抱えており、いずれは財政再建に向けた動きが加速していくと思われる。安定的で持続的な行政基盤の確立に向け、一般会計はもとより、特別会計も含め、なお一層の努力が必要である。

また、予算執行において、支出義務の生じている予算の減額や契約金の未払いが発生しているなど不適切な事務処理が行われており、財務事務におけるチェック体制の改善や職員の意識改革を強く望む。

今後においても限られた財源の効率的な配分と簡素で繊細な行財政運営を目指し、職員の英知を結集し「人と環境にやさしい協働の村づくり」に邁進していただきたい。

監査委員 高橋 善一
佐藤正次郎

建設課

答弁 県単夢プラン事業の26年度以降は示されていないが、継続された場合は取り入れていきたい。

質問 公営住宅修繕に金額など基準はあるか。

答弁 ない。村で設置した設備は村が修繕する。

意気込みは

質問 国道342と397号線期成同盟会の意気込みなどは。

答弁 意欲が薄れてきているように感じており、力を入れる必要がある。

教育委員会

質問 修繕の基準は

質問 保育所の太陽光発電のデータはあるか。

質問 保育所の太陽光発電のデータはあるか。

質問 保育所の太陽光発電のデータはあるか。

質問 保育所の太陽光発電のデータはあるか。

答弁 夏場で全体の12%、冬場で2%、年平均で約6%の電気料を補っている。

質問 総合グラウンドには

産廃、野球場の駐車場には砂が放置され、管理が行き届いていないのでは。

答弁 いずれも工事に関係するものと理解しているので整理させる。

診療所

質問 診療報酬大幅増額

質問 診療報酬の大幅な増額は。

答弁 なるせ調剤薬局の閉鎖に伴う、院内処方による薬剤の報酬が増えたことによる。

主な質疑

9月招集会議2日目の9日と最終日となった13日に議案に対する質疑が行われました。主な質疑の内容を要約してお伝えします。

一般会計は2億3496万8千円の追加 栗駒山荘浴室改修に継続費を設定



9月招集会議

防災デジタル無線整備

質問 指名した7社のうち5社が辞退しているが、1社でも入札は成立するか。

答弁 指名競争の場合、複数(2社以上)でなければ成立しない。

質問 辞退した会社の実情は。

答弁 入札を辞退した理由を聞く権利はないが、現在、全国的にこの種の工事が多く、技術者を専属に配置しなければならぬといった制約により、対応できないことから辞退したと考えられる。

子ども・子育てを社会全体で支援 子ども・子育て会議条例

質問 会議において、臨時委員を置くことができる内容だが、組織を構成する15人以内の委員で審議・調査は可能でないか。

答弁 特別な事項について調査する場合に置くことができるものであり、基本的には15人以内の委員で調査を行うことになる。

普通交付税は1億7613万円の大幅増 一般会計補正予算(第5号)

質問 普通交付税が大幅に増額した理由は。

答弁 交付税算入が増えており、結果的にこうなった。少なくとも積みもったわけではない。

質問 子ども子育て支援事業調査分析業務委託の内容は。

答弁 調査内容は国の指針で決まっております、このほかに県や村として加味したアンケート調査を行う。
アンケートの内容作成・配付・回収は村で行い、集計や内容分析は委託業者が行う。

質問 畜産業費における工事請負費の内容は。

答弁 小五里台側から現在予定されている畜舎建設予定地までの取水と水路の改修が約650m、椿台側への排水路工事が約250mの内容となっている。委託料は、それらの測量設計となっている。

質問 栗駒山荘浴室改修を継続費とした根拠は。

答弁 今年の春に実施した女性の風呂の改修は6月末まで要した経緯から、男風呂の改修では、山荘閉鎖時に仮設工事を行い、来春、雪消えとともに本体工事にかかるために継続費を設定した。冬期間に資材の調達を済ませることで、工事期間を短縮し早期に完成させ、お客の要望に応えるためでもある。

質問 伊達堰改修工事の内容や受益者負担などは。

答弁 休止していた工事を再開し、残りの工事を行う内容となっている。
実施設計により工事費が追加となった。受益者の負担金は、額が確定してから補正で計上したい。

人事

議会の同意を必要とし、任期満了となる委員の人事案が提出され全会一致で同意しました。

教育委員

鈴木 一夫氏(田子内62歳)

※再任

(任期) 平成25年10月1日から平成29年9月30日まで

固定資産評価審査委員

藤原 信雄氏(平良63歳)

佐々木 誠一氏(岩井川65歳)

高橋 義明氏(谷地60歳)

※全員再任

(任期) 平成25年9月20日から平成28年9月19日まで

契約

○防災デジタル無線(同報系)施設整備工事

契約額 1億8585万円
相手方 日本無線株式会社

秋田営業所(秋田市)

○岩井川ミニライিসセンター建築本體工事(変更契約)

変更前 5229万円

変更後 5398万円

変更額 169万円

相手方 創和建設株式会社

25年度一般会計補正予算(第5号)の主なもの	
歳入	
○村税	
現年度分の減	▲111万円
滞納繰越分の増	474万円
○地方交付税	
普通交付税の増	1億7,613万円
○繰越金	
前年度繰越金の増	5,035万円
○村債	
臨時財政対策債の減	▲122万円
消防施設整備事業債(過疎債)の増	400万円
歳出	
○総務費	
庁舎屋根裏の改修	700万円
高校生バス通学費補助金の追加	50万円
奨学資金貸付金の減	▲288万円
町村電算共同化経費	330万円
住基ネット更新経費	1,066万円
○民生費	
子ども・子育て支援事業	99万円
○衛生費	
簡易水道特別会計繰出金の減	▲247万円
下水道事業特別会計繰出金の減	▲97万円
○農林水産業費	
草地畜産基盤整備事業費の追加	1,485万円
農業用水路等改修事業費の追加	215万円
○商工費	
栗駒山荘浴室改修(継続費)	145万円
○消防費	
常備消防費負担金の追加	669万円
消火栓設置工事の追加	400万円
○公債費	
長期債の繰上償還(臨時財政対策債)	1億6,993万円

請願・陳情

9月招集会議には、4件の陳情が提出され、所管する常任委員会に付託し、審査の結果2件を採択すべきものとし、要請に基づき、意見書を提出することに決定しました。

採択とした陳情

○「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情
(陳情者) 全国森林環境税創設促進議員連盟

会長 板垣 一徳

○経済・雇用対策強化のための地方財政の充実を求める意見書採択に関する陳情
(陳情者) 連合秋田横手湯沢地域協議会 議長 齊藤 斉

不採択とした陳情

○母(朱春菊)が中国で不法に逮捕されている件に関する要望
(陳情者) 西村 麗子
○違法な臓器生体移植を禁じることを求める陳情
(陳情者) 井田 敏美

佐々木 健 夫 議員

第三セクター、取締役・株主の意見はないか

村長 経営赤字に対する指摘はない

質問 累積赤字が続く第三セクターに対する取締役会議や株主総会で何か意見がなかったか。

村長 24年度決算で単年度赤字が解消されたので、第三セクターとして努力しているとの評価をいただいた。累積赤字に対する指摘はなかった。

相談役・経営指導の内容は

質問 相談役の指導はどのような内容か。また経営の参考になった例はあったか。

村長 相談役には、できるだけ早く単年度黒字に転換できるようにお願いして、厳しい指導をいただいている。宿泊・食事あるいは施設の快適な環境整備等徹底した原価率を考えた合理的な経営の指導を受けて、職員も一品一品の仕入

れや食事についてもこれまでにはなかった原価率を計算した考え方で対応しており、職員には厳しく戸惑いもありましたが、その方向に職員がしっかりと向いており、相当な効果があると思っている。

税理士の指導・評価は

質問 第三セクターの厳しい経営に対する税理士の指導・評価はどのようなものであったか。

村長 24年度実績については、提携社方式による月例の経営分析表によると収益性の分析あるいは生産性、安全性など、同業他社と比較してもその数値は上回っているものが多い。経営が健全化に向かっているとの評価をいただいている。

第2・第4リフトの整備費の関連で

質問 22から24年度3年間の第2リフト修繕費と7月に契約した第4リフトの修繕費5890万円の額はおよそ整合するか。

村長 第2リフトの3年間の整備費は4225万円になっており、第4リフトの整備費は5890万5000円であるが、整備内容が押送、駆動用ギアボックス整備、減速機・原動緊張滑車整備、非常用ブレーキ効果、押送ジョイント効果等であり、今回の第4リフトとは整備内容が異なっており、比較することができないので整合するということはない。

第三セクターへの村持ち出し金も公開すべき

質問 村広報の第三セクター

経営状況公開のなかで、累積赤字として3億2769万円を掲げている。この額は会社の総資本金を当て込んで24年度末で7669万円の赤字になっている。その他に毎年45000万円、多い時は1億円を超える村の持ち出しがある。この額と雇用の場や地場産業による受益の部分を比較した細かいところまで公開して村民の審判を受けていくべきではないか。

村長 第三セクターの性格は、民間会社のみでは厳しく馴染まない状況下で行政が入り設立したものであり、雇用の場、地場産業を提供するのが役割



である。他市町村では第三セクターに補助金を出しているところがあるが、村では補助金は出してないし、委託料にしても根拠に基づき議決いただいたものである。また、これまで地域経済に役割を果たしているし、しっかりと公開しているので、村民の審判をいただいていると解釈している。

村政を問う

佐々木 正 利 議員

参加者4名の仙人修行、企画・募集に問題はなかったか

村長 募集の仕方、時間的配分などを検討する必要がある

質問 今年行われた仙人修行に参加者4名と非常に少なかったのは、企画、募集に問題はなかったのか。このことをどう捉えているか。

村長 募集の時期については、6月の補正予算計上後に実質的なスタートをしているので、多少遅れたのではないかと感じている。企画については、実施する側の立場ではなく、参加する人がどのような条件に、参加しやすいような条件になるかということも視野に入れた募集の仕方、時間的配分等も検討する必要がある。

単にホームページに掲載したからいいということではなく、時期を今からもう準備に取り掛かるくらい意欲がほしいと思っている。

質問 来年度以降も継続の予定であるが、実施内容、募集方法、PR活動などの見直しを現段階で何に着目しているか。

村長 今年の交流会でリーダーの方からOB会を結成したいとの提案があり、OB会

を作って、OB会同士の呼びかけではなく、知り合いの方々に呼びかけていただいで、参加者を募っていくことが効果的ではないかと考えている。

国民文化祭事業について

質問 来年本村で「日本で最も美しい村、昔この祭典」と今年は「プレイベント」として「出羽の国の昔っこ」が行われる予定になっている。語り部の口演が主な内容になっているが、村内に語り部は何名あるか。若い方で何歳か。

村長 昔この会に10名の語り部があられるようで、一番若い方で58歳の方が会員としておられるようです。

質問 後継者が必要と思うが支援の考えはあるか。

村長 昔語りを聞く機会を設け興味・関心を持ってもらうことが必要と思つし、後継者育成の必要な事業についても積極的に芸術文化協会を通して支援させていきたい。

質問 この企画は国民文化祭事業だけなのか。今後何らかの形で継続するのか。

村長 国民文化祭の事業の一つとして昔っこを計画しており、この機会に昔語りや方言に関心を持っていただき、今後もうこうした会の活動が活発に行われるように、後継者の育成に繋がる事業になっていければ望ましい形だと思つ。

局地的豪雨について

質問 村内において局地的豪雨が発生したが被害はなかったか。

村長 村の中に大きい被害はなかった。

質問 村においても観測地点を増やすなど対策を考える時期と思つが。

村長 村内では消防署と手倉草ノ台の3箇所に雨の観測地点があるが、これ以外についてもどういふふうな設備が必要なのかも含めて検討していく必要があるだろう。

質問 水害用の資器材を準備していないのではないかと。

村長 資器材の準備はもう一度再確認させたい。



道州制導入断固反対！

9月招集会議で町村や国民に丁寧な説明がないまま道州制の導入が進められていることに対し、導入に反対する意見書を政府に提出する議員発議が可決されました。

道州制導入に断固反対する意見書

我々町村議会は、平成20年以來、町村議会議長全国大会において、その総意により、「住民自治の推進に逆行する道州制は行わないこと。」を決定し、本年4月15日には、全国町村議会議長会が「町村や国民に対して丁寧な説明や真摯な議論もないまま、道州制の導入が決定したかのごとき法案が提出されようとしていることは誠に遺憾である。」とする緊急声明を行った。さらに、7月18日には、「道州制は絶対に導入しないこと。」とする要望を決定し、政府・国会に対し、要請してきたところである。

しかしながら、与党においては、道州制導入を目指す法案の国会への提出の動きが依然としてみられ、また、野党の一部においては、既に「道州制への移行のための改革基本法案」を第183回国会へ提出し、衆議院内閣委員会において閉会中審査となっているなど、我々の要請を無視するかの動きをみせている。

これらの法案は、道州制導入後の国の具体的ななたちを示さないまま、期限を区切った導入ありきの内容となっており、事務権限の受け皿という名目のもと、ほとんどの町村においては、事実上の合併を余儀なくされるおそれが高い。道州はもとより再編された「基礎自治体」は、現在の市町村や都道府県に比べ、住民と行政との距離が格段に遠くなり、住民自治が衰退してしまうことは明らかである。

町村は、これまで国民の生活を支えるため、食料供給、水源涵養、国土保全に努め、伝統・文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、住民とともに個性あるまちづくりを進めてきた。それにもかかわらず、効率性や経済性を優先し、地域の伝統や文化、郷土意識を無視してつくり上げる大規模な団体は、住民を置き去りにするものであり、到底地方自治体と呼べるものではない。多様な自治体の存在を認め、個々の自治体の活力を高めることが、ひいては、全体としての国力の増強につながるものであると確信している。よって、東成瀬村議会は、道州制の導入に断固反対する。

9月定例会議決事項名

平成24年度決算に基づく健全化比率及び資金不足比率の報告	平成25年度介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算（第1号）（438万2千円の追加）
教育委員会委員の任命について（鈴木一夫氏を再任）	平成25年度介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）補正予算（第3号）（41万2千円の追加）
固定資産評価審査委員会委員の任命について（藤原信雄氏を再任）	平成25年度簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）（20万4千円の追加）
固定資産評価審査委員会委員の任命について（佐々木誠一氏を再任）	平成25年度下水道事業特別会計補正予算（第1号）（75万4千円の追加）
固定資産評価審査委員会委員の任命について（高橋義明氏を再任）	平成24年度一般会計歳入歳出決算認定
村税条例の一部を改正する条例	平成24年度国民健康保険特別会計（事業勘定）歳入歳出決算認定
国民健康保険税条例の一部を改正する条例	平成24年度国民健康保険特別会計（直営診療施設勘定）歳入歳出決算認定
子ども・子育て会議条例	平成24年度老人保健特別会計歳入歳出決算認定
工事請負契約の締結（防災デジタル無線（同報系）施設整備工事）	平成24年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定
工事請負変更契約の締結（岩井川ミニライズセンター建築本体工事）	平成24年度介護保険特別会計（保険事業勘定）歳入歳出決算認定
平成25年度一般会計補正予算（第5号）	平成24年度介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）歳入歳出決算認定
平成25年度国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）（485万6千円の追加）	平成24年度簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定
平成25年度国民健康保険特別会計（直営診療施設勘定）補正予算（第2号）（310万8千円の追加）	平成24年度下水道事業特別会計歳入歳出決算認定
平成25年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）（40万3千円の追加）	

8月臨時会

8月12日に臨時会が開催され、秋田栗駒リゾート株式会社の経営状況を報告する資料と一般会計の補正予算案が提出され全会一致で可決されました。

補正予算の主な内容

○温泉施設整備工事 2,300万円の追加

新たに掘削した温泉のガス処理、pH(ペーハー)処理などの追加工事。

○防災無線整備事業費 1億4,480万円(新規)

平成25・26年度の2カ年の継続費を設定し、防災デジタル無線(同報系)の施設整備を行う事業のうち本年度事業分。

※秋田栗駒リゾートの経営状況については、議会だより171号をご覧ください。

9月定例会、会期は12月2日までの89日間

通年議会を試行

災害などの緊急時や行政課題への迅速な対応と委員会活動の期間制限の撤廃など、議会改革の一環として、来年1月の導入を目指している通年議会の実務的な検証を行うため、9月定例会で試行を実施しています。

通年議会は、定例会を年1回と定め、定期的な会議と臨時的な会議を繰り返すもので、村当局と施行に向け、村長の専決事項を定めるなど環境整備を進め、12月定例会前に最終的な判断を行うことになっています。

また、試行要綱に基づいて実施しており、会議は次のように定めています。

- ①招集会議・・・村長が招集する会議。
- ②定例会議・・・定期的に開く会議。
- ③臨時会議・・・村長又は議員からの要請に基づき、緊急に開く会議。

現在、本会議は休会となっており、会期中に緊急に会議を開く必要がある場合は、議長の通知によって本会議が再開されます。

9月は村長が招集しており「9月招集会議」となっていますが、仮に11月に本会議を再開した場合は「11月臨時会議」と呼ぶことになります。

議会全員協議会

8月7日に全員協議会が開催され、現在、行政放送を行っているオフトーク通信に代わる放送システムとして「防災デジタル無線」の施設整備を行う事業説明と温泉掘削で毎分350リットル、温度46・4℃の温泉が湧出し、成分を分析した結果、硫化水素臭のガスが発生しており、これらの安全対策を講じる追加工事の説明を受けました。

主な質疑(防災デジタル無線)

質問 26年度実施の戸別受信機整備は過疎債の対象となっているか。

答弁 緊急防災・減災事業債が対象となっている。

質問 事業は賛成だが、議会と内容を詰めてから予算措置すべきでなかったか。

答弁 3月13日開催の全員協議会で防災減災事業債に目的がつけば25年度で実施する旨の説明をしている。工事期間も考慮し

次世代放送システムは、防災デジタル無線で温泉掘削で毎分350リットル、46・4℃の温泉が湧出

今回の提出となった。

質問 オフトーク通信のサービスは何年でやめるといった期限はあるのか。

答弁 すべてのサービス終了が平成27年2月末という通知がきている。

質問 屋外の拡声機で沢方(田子内)の奥に入った場合、聞こえるか。

答弁 屋外のカバー率は85%くらいで、屋内の戸別受信機で聞くことをメインとしている。

質問 メーカーは特定しているか。また、戸別受信機のアンテナは雪に大丈夫か。

答弁 性能に大差がないのでメーカーは指定していない。落雪による故障のない取り付けを考

質問 須川地区をどう考えているか。

答弁 国定公園内で規制もあり今回の計画にはない。

視察レポート

氷見はとむぎ物語

平成25年7月31日 富山県 JA氷見市

産業建設常任委員会

第6次産業

今回は、平成22年3月30日に閣議決定された「新しい食料、農業・農村基本計画」で農業の第6次産業化が柱の一つとなっていることに着目し、地域の特性を生かした農業の第6次産業化をテーマとしました。

政府の農工商等連携事業計画第1回認定を受け、ペットボトルの「氷見はとむぎ茶」事業を成功させたJA氷見市を訪れ、商品開発の背景や現状について視察研修を行いました。

氷見はとむぎ茶の誕生

氷見市は、富山県能登半島の東側、付け根部分に位置しており、富山湾の恵みを受け、日本海側有数の氷見漁港があり、漁業が有名ですが、みどり豊かな大地として、農業も基幹産業となっています。

JA氷見市が商品開発に取り組む動機となったのは、湿田が多く、大豆や麦栽培が安定しなかったことから、湿害に強いハトムギを地域振興最重点作物に指定し、産地化を推進してきたこと

です。このため、JAでは、ハトムギを市場価格の2倍で買い上げており、ハトムギの付加価値を高める必要があったことです。



スポーツ大会に貢献！「氷見はとむぎ茶」

地消地産と農農連携

氷見はとむぎ茶は、JA氷見市の100%出資型農業法人「株式会社アグリリンクテクノロジー」が製品開発や販売などを担っています。

製造を開始した平成19年は3万5000本でスタートし、地域での消費拡大を図るため、毎年開催される全国中学校ハンドボール選手権大会の運営資金としてペットボトル1本の売上に付き5円の寄附を行うと市長へ提言し、市も積極的にPRを行い、市や地域のほとんどの会合で使うなど、市民との合意形成が図られ、現在は年間200万本を販売し、1000万円を寄附するまでに成長しています。こうした、地元消費拡大を図る「地消地産」がコンセプトで、輸送コスト販路拡大にはもとより限界があると判断しており「氷見ハトムギきれいプロジェクト」として全国一律的な口

成功の裏には…

第6次産業として成功した氷見はとむぎ茶は、中山間地域・湿田というハンデを克服するためハトムギ栽培を転作物として指定し、その付加価値を高めたことにつきますが、新商品開発に産学官の見本となる自治体や大学との連携、100%出資型農業法人設立に氷見市企画振興部長経験者や銀行OBを起用するなど戦略性の高さを感じた視察でした。



成功の裏にはキーパーソンが…

積雪日本一の村

平成25年8月2日 長野県栄村

総務教育民生常任委員会

(災害対策特別委員会合同)



JR 飯山線「森宮野原駅」

日本最高積雪地点と7.85mの高さを示す標柱

豪雪の村

栄村は、長野県の最北端に位置し、東西19キロ、南北33キロ、面積が271.5キロ平方メートル、山林原野が約93%で、本村と比較的、同様な地形をなしております。

また、全国でも有数の豪雪地帯であり昭和22年2月12日に7・85メートルの日本最高積雪を記録しています。視察のテーマは、例年の豪雪対策と平成23年3月12日早朝に発生した長野県北部地震への対応でした。

独特な除雪支援体制

例年の豪雪対策として村道除雪は、直営と委託により行っており、直営は12月1日から3月31日まで20名の臨時職員を雇用して14.4路線を除雪し、事業費は約9000万円、委託は村内5業者で54路線、約3000万円とのことでした。

特色ある事業として、昭和52年12月に「雪害対策救助員設置要綱」を制定しています。この事業は、高齢化などにより除雪が困難となっている世帯に対し、救助員を派遣し、冬期間の住民の安全と生活環境の維持向上を図るものです。昨年は、18人が救助員として委嘱され、救助対象世帯は156世帯で事業費は一般財源で約1800万円とのことでした。

また、自宅から除雪路線までを除雪する「道踏み支援事業」では、74世帯に対し、44名の支援員が支援活動をを行い、約300万円の事業費となっておりました。本村より1メートル以上は多いと思われる積雪であり、除雪体制も充実していますが、費用も多額だと感じました。

積雪時に大地震発生

長野県北部地震は、東日本大震災の翌日、早朝3時59分頃に発生し、震度は6強を記録しています。

住家の半数以上が全壊や半壊し、約8割の住民が避難する大きな災害でしたが、早朝の就眠時間ということから、火災が無かったことが幸いしたとの説明でした。行政の対応は、役場庁舎に対策策本部を設置したのは午前6時で、約2時間を要しているわけですが、橋の崩落や雪崩により道路が遮断されており、職員も集合できない状況を考慮すれば、遅いとは言えないと思います。

地区の活動が大きな力に

道路網が破壊し、現地に行けない状況で、被災情報の収集には手間取ったようですが、各地区の区長を中心に、各世帯の安否確認や断水状況などが把握され、次第に情報が集まったとのことでした。役場庁舎への電源の供給が早かったことや携帯電話は通じていたことで比較的早く情報が収集できたとの説明がありました。

また、避難による空き家の盗難防止には、地元消防団による24時間体制の監視が行われ、3月18日には民間団体によるボランティアセンターが立ち上がり、住民の被災支援は官民協力のもとスムーズに移行了たようです。各地区における被災状況の把握や防犯対策が自主的に行われたことが非常に大きな力になったと感じた視察研修でした。



中村隊員とツーショット（右：佐藤隊員）

この人に聞きたい

Kaho 突撃

いんたびゅう

今回は8月から2人目の「地域おこし協力隊」に着任された佐藤 齋さんにインタビューしてみました。佐藤さんのプロフィールは村広報8月号をご覧ください。

かほ 協力隊に応募したきっかけは？

佐藤 長崎県の対馬の海辺でたずねている方に声をかけたら、たまたま総務省の人でした（笑）。で、その方から協力隊のことを聞いたので、応募のきっかけです。前から秋田で仕事を作りたいと思っていたので「日本で最も美しい村」秋田「村」の3つのキーワードから東成瀬村になりました。

かほ 朝ドラ「あまちゃん」じゃないけど、過疎で小さな村ですが…。

佐藤 小さな村が世界を変えていたら、日本全国のみえさんのテンションが上がると思います。

かほ 前職は？すごく忙しいのかな？

佐藤 大学卒業後、最初の仕事は「テレビディレクター」で、NHKのドキュメンタリーでかを作っていました。その後「広告のプランナー」で企画漬けの日々。

現在、「海士町（島根県の離島）観光協会」の職員で「離島キッチン」の責任者として現在も続けています。

かほ 離島キッチン？って…9月の議会ですでに首都圏発信実証事業と何か関係ありませんか？

佐藤 あります。「離島キッチン」は海士町の食事やお酒を提供するお店で東京の浅草に

あります。こんどは、その東成瀬村バージョンとなる事業で具体的には「離島キッチン」のコーポ店舗として、茨城県の水戸駅ビルに今年の12月から営業を開始します。そこで村の食事を食べていただく、「こうい素敵な村があるんだあ」今度行ってみたいなどお客様に思ってもらえたら…と。

かほ 素敵な企画ですね！将来、村で会社を設立したいと考えているようですが…。

佐藤 はい！大柳沼の水上に浮かぶコテージを作って、「ハコブネ」という名前の会社を作れたらな〜と（笑）…まあ、水上会社は無理かもしれませんが、いろいろなことを企画して、法人税で村に恩返しできるような頑張りです。

かほ 最後に皆さんへメッセージを！

佐藤 遠足の前日の子供のように、毎日がワクワクできる仕事を村の方々と一緒に創っていきたいと思います。先日、「村人プロジェクト」というサイトを立ち上げましたので、是非ともご覧ください。村の方々全員と仕事ができる日を楽しみにしています！

かほ 今日はお忙しい中、ありがとうございます。ハコブネの会社設立を楽しみにしています。

※村人プロジェクト
<http://www.rnurabito-project.com>

暫時休憩

きゆうけい

▼収穫の秋もあつという間に過ぎようとしている。

「こんな年もないな！」休みなく稲刈り穫りをしたオベレーターがつぶやいた。

私のハサ架け稲も十日程で脱穀された。今年の作柄も天候とともに順調な秋と言える。

▼スポーツ、レジャーの秋、連休もいっぴくなく交通量が多かった。

「三又温泉へはどういくんでしょ」連休の中の日の朝「ゆるるん」のそばで尋ねられた。北上市から来て再訪だがわからなくなったという。家々のうしろの峠道を指して教えるが、道路の分岐はなかなか説明しにくい。

▼いよいよ「やまゆり温泉」もオープンした。

お湯に対するイメージは上々で関心も高いようである。名のよう、百回合うような繁盛を期待したい。

（委員・佐藤正次郎）

東成瀬村
議会だより
平成25年10月20日発行

No.172

発行 東成瀬村議会
編集 東成瀬村議会広報対策特別委員会
〒019-0801 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字仙人下30-1
TEL 0182(47)3411 FAX 0182(47)3117 e-mail gikai@vill.higashinaruse.akita.jp
印刷/株式会社増田印刷所